

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部・二年

参加プログラム: NUS2: Asia Now - Southeast Asian Cosmopolitan Urbanism

派遣先大学: National University of Singapore

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イギリスの大学教育雑誌“The Times Higher Education”が発表した“The World University Ranking 2012-13”では29位という東大に次いでアジア第二位を占め、イエール大学の分校の設立も進められるなど成長の勢いが著しい大学。キャンパスは広く、主な移動手段はシャトルバス。キャンパスも全体的にきれいで、学生の国籍も多種多様な印象。

参加した動機

もともと一年留学したいという強い思いがあり、三年生での一年留学に向けて自分の力試し及び課題発見の意味を込めて短期プログラムに参加しようと思いました。その中でこの IARU を選んだのは、一か月弱という短期間の中で一つのテーマについて徹底的に取り組み知見を深めることが出来ること、世界中から幅広いバックグラウンドを持つ学生が集まること、が大きな魅力として私の目に映ったからです。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラム中の授業の欠席については東大から特別なケアがあるわけではないので、自分で先生一人一人に事情を説明してテストを融通してもらうことになります。テストなどでは若干の不利益が生じますが、それを差し引いても参加する価値があると思ったので思い切って応募するに至りました。

手続きは基本的に現地大学の担当者の方の指示に従って進めるだけなので特に問題は起こらないと思います。事前のリーディングリストや身に付けておくべきスキルは早めに確認しておいた方がいいです。IARU の Facebook ページがあるので参加者とは事前にそのページで連絡を取り合うことが出来ます。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ありませんでした。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

念のため歯科検診を受けました。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

NUS に強制的に加入させられる保険に加えて、クレジットカードの付帯保険を用いました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

必修だったスペイン語二列、英語二列に関しては繰り上げまたは繰り下げテストにしてもらえるように先生にお願いしました。ただ、前者に関しては上限 75 点という制約が課されてしまうことになったので参加希望者の方はその可能性にも留意しておいた方がいいと思います。その他の科目に関しても個別に先生にお願いして対応していただきました。IARU の合格通知は履修登録の前に来るので、サマープログラムでしばらく授業を欠席しても成績に響きにくいような授業を選択的に選んだ方がいいと思います。また、私は前期教養学部だったので特定の教授に許可をいただく必要はありませんでした。

東大では基本的に単位認定を認めていなかったが、他の大学から来た学生はほとんど単位認定を認められているようでした。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL 93 点

特別な準備はしませんでした。

⑦ 日本から持参した方がいいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

・プリペイド式の携帯電話…現地でも手に入りますが、SIM カードが自分の携帯の規格と合わない困るので予め調べといた方がいいかもしれません。

・LAN ケーブル…寮の部屋には無線 LAN が届いていませんでした。

・マスク…現地でも手に入りますが割高です。環境に慣れないゆえの体調不良は喉からくることが多いので寝るときにはマスクをした方がいいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Asia Now - Southeast Asian Cosmopolitan Urbanism

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Lecture (Introduction, Context, Methodology, Cases -Issuance of Brief and Maps/Materials)

Walking Tour

Fieldwork

Exhibition

講義は導入として必要最低限しか行われず、現地で実際に建築物を見ながら先生が説明を行うというのがメインだった。後半は班や個人の研究のための準備期間に充てられた。印象に残っている内容は二点あり、一つは個人研究のためのフィールドワーク。実際に現地を歩き回り、地元の方々にインタビューできたのは貴重な経験でした。もう一点は、シンガポール大学での展示会を自分たちで全て準備したことです。展示物の配置や装飾など、みんなで話し合いながら構想を組み立てて、展示会初日を迎えたのは非常に感慨深かったです。

④学習・研究面でのアドバイス

IARUを英語力向上に利用するのももちろんいいと思いますが、プログラムが非常に魅力的なのでそれ以上の収穫を得られるように意識することが大事だと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

よく言われることだがシングリッシュを理解するのが非常に難しかった。大学職員のアクセントがひどかったので手続きなどに苦勞した。

しかし、参加者の英語はそれなりに聞き取りやすく、議論などにも参加して意見を言うことは可能でした。月並みですが積極性があれば語学面で致命的な遅れをとることはないと思います。ただ、個人的には思った以上にライティングに苦勞しました。展示物や毎日のブログなど文章を書く機会が多かったのですが、前者はフォーマルな文体・後者はカジュアルな文体が求められ、なかなかこなれた文章を書くことが出来ませんでした。また、イギリス英語に統一させられたことも苦勞の一因になっていたと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿は大学が提供する寮に泊まりました。宿泊費は半分が大学持ち、三週間で15000円ほどでした。部屋は一人一部屋でベッドと勉強机だけのシンプルな部屋でした。エアコンがついておらずファンだけでした。とりわけ過ごしづらいとは思っていませんでしたが、勉強はreading roomと呼ばれるエアコンの効いた部屋でしていました。階ごとに共用キッチンがありましたが一回も使いませんでした。セキュリティがしっかりしているので自分の部屋にたどり着くまでに三回もカードキーを使う必要がありました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は日本の夏とだいたい同じと聞いていいと思います。気温・湿度共にほぼ同じだった気がします。ただ、日差しが強かったです。大学周辺は徒歩圏には何もないので基本的にバスや電車で繁華街に出かけて買い物や食事はしていました。交通機関はよく整備されているので問題なく利用できると思います。食事は大学内の食堂や外食が中心で自炊は一切しませんでした。お金は現金で日本円を持っていき両替してそのまま使っていたので特別な工夫はしていませんでした。プログラム前半は街に出かけることが多かったのですが、後半は大学にこもっての作業が多かったので両替は好きなタイミングに出来るわけではありませんでした。カギをなくした時などの再発行はクレジットカードでしかできないので、カードは必須です。クレジットカードを使えばATMでお金をおろせると聞いていたのですが私のカードはなぜかおろせませんでした。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シンガポールは治安がいいと聞いていたので特段の配慮はしませんでした。私は現地で体調を崩して大学のmedical centerにお世話になったのですが、医療費もリーズナブルでしたしサービスもよかったです。現地では野菜があまりとれないのでビタミン剤などを持っていけばよかったと思いました。代わりに果物を多く摂るように心がけました。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃 7万円

家賃 1万5000円

保険 5000円

食費 5万円

交通費 5000円

娯楽費 5000円

合計 15万円

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

スペインの財団 Santander から9万2000円いただきました。サマープログラム参加者東大から配布された奨学金申請書を提出していただいた奨学金なので、自分で特別に調べたりはしませんでした。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

シンガポール国立大学から参加していた学生の所属しているフットサルの練習に参加しました。週末も fieldwork をしなければならなかったのであまり観光など学習以外の活動には時間を使っていません。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にありませんでした。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館はきれいで蔵書量も多く充実していました。また、職員の方も親切で探している文献を探すのに協力してくださいました。スポーツ施設は充実しており留学生にも開放されていましたが忙しくて利用する時間がありませんでした。食堂はキャンパス内に複数あり、安価でおいしい食事がとれます。ただ、夏休み期間だったため営業時間が短かったのが難点でした。キャンパス内に Wifi が飛んでおり、どこにいても基本的に無線 LAN が利用可能でしたが自分の部屋だけはなぜか届きませんでした。ただ、有線 LAN が使えるので特に問題はありません。Wifi を使う際に毎回パスワードを入力するのが面倒でした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私にとっての今回のプログラムを一語で表すと「逆境」でした。慣れない海外の地での学びというのはもちろんのこと、普段聞きなれないアクセントの強い英語に囲まれて、厳しいプログラムの中、体調を崩しながらも課題と格闘する日々は、いい意味でこの上なく心身を削られた三週間でした。こうした逆境に耐え抜いたことは IARU のプログラムに参加したことによって得られた大きな収穫だったと思います。日本にいる限り、こうした逆境に遭遇することはなかなかありません。もちろん、ある種の「背水の陣」の状況を創出するためだけに留学に行くことをいいとは思いませんが、動機の一つとしては十分だと思います。

また、授業の在り方の多様性を知りました。今までは講義がメイン、たまにディスカッション、といったスタイルの授業しか受けたことがありませんが、今回のサマープログラムでは現地でのフィールドワークや博物館での展示会など初めての経験が多くありました。そして同時に、プログラムを学生が主体的に作り上げている、という印象も強く受けました。

このプログラムはテーマを Urbanism と銘打っているのですが建築についての授業が中心だと思っていましたが、実際は民族共存を「錯覚」させようとする政府の意図が込められた都市設計を学び、それについて批判・吟味するという趣旨であったため、法学部に進学予定の私としても縁遠い話ではなく、非常に興味を持ってプログラムに取り組むことが出来た。このプログラムでは都市設計を通した、政府による認識のフレーミングを学んだが、今後はメディアや他の媒体によるフレーミングについても学びたいと強く意識するようになりました。

③ 参加後の予定

三年生の秋から一年間、海外の大学に留学することを考えています。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

サマープログラムと一口に言っても、語学力強化のものからアカデミックなものまで、その種類は多種多様です。どのプログラムもそれぞれ魅力的だと思いますが、プログラムの魅力を一面的に捉えないでもらいたいです。語学力強化のプログラムだからと言って、プログラムから得られるものはそれだけではないはずです。IARU も同様であり、英語を使ったハイレベルな授業、参加学生の多様性、などなど IARU が売りにしている魅力はたくさんありますが、実際に参加するとそれ以上のものが得られます。一か月程度の期間でそれなりの低コストでここまで充実したプログラムはなかなかないと思います。少しでも IARU が気になった皆さんはぜひ参加してみることをお勧めします。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

シンガポールナビ <http://singapore.navi.com/>

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: IARU GSP

派遣先大学: シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 商社、貿易) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学

Times Higher Education World University Rankings(THES-Qs) 2012年・25位(アジア2位)

世界各国から留学生を受け入れ、国際色豊か。資源のない小国シンガポールを盛り立てるのは人材の育成しかないというリークアンニュー元首相の考えが反映された大学。

参加した動機

成長著しいアジアの代表であるシンガポールへ行ってその勢いを感じたかった。その成長の中で歴史遺産の保存がどのようになされているのかに興味があった。英語力向上のため

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的に駒場国際オフィスや本部国際交流課の方のアドバイスを受けながら自分でやることになります。結構大変です。最終的には自分でいろいろな書類を書いて出さなければなりません、わからないことがあったら自分で対処しようとするよりもまずは本部国際交流課に問い合わせてみたほうが早かった気がします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

一ヶ月半以内であれば、シンガポールはビザなし渡航可能です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

あちらは室内でエアコンをガンガン付けているので、室内室外で温度差が激しく慣れていない外国人は簡単に風邪をひきます。風邪薬は絶対持っていったほうがいいです。ただ、シンガポールでは簡単に医薬品が手に入るので、あちらで入手してもいいでしょう。ラッフルズ病院などでは日本語で診察も受けられるようです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードの保険に加え、日光興和損保の海外旅行保険に加入しました。お世話になることはありませんでした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学期中の渡航だったので各科目担当教員に個別に相談して不在中の講義資料や期末試験の日程などの便宜を図ってもらいました。教養学部は教員の最良が大きいらしく、大体は快く対応してくれました。一部厳しい教員もいるので、忘れずに相談しておきましょう。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL75点というなかなか残念な語学力での渡航でした。案の定言葉のバリアに悩まされましたが、それも含めていい経験だったと思っています。シンガポールでは中国語の素養があると役に立ちます。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

インスタント味噌汁。折れかけた心を癒してくれます。

優先 LAN ケーブル シンガポールは主要箇所で無料 Wi-Fiはいると言いながら、正直使い勝手は微妙です。寮には多分優先 LAN ポートがあるので、LAN ケーブルを持参しましょう。私はこれを現地でゲットするのにすごく苦労しました。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

AR3613 Southeast Asian Cosmopolitan Urbanism:

Architectural heritage and cultural tourism in Singapore

※渡航時期が駒場の学期中だったため、単位振替が認められませんでした。

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

多民族国家シンガポールでの各民族のアイデンティティの現れとしての歴史的建築遺産について。こうした建築遺産がどのように生まれたか、経済成長するシンガポールの再開発事業・観光事業とこうした建築遺産の保存事業がどのように折衷されてきたか、現地住民や観光客がこうした建築遺産をどのように捉えているのかを学びました。講義はもちろんですが、フィールドワークにも重点が置かれ、チャイナタウンを九時間踏破する日もありました。最終的にはNUS 博物館での展示を作るということだったので、朝9時にはスタジオ入りして自分やグループの研究をし、夜は深夜2時までグループディスカッションをするという研究漬けの毎日でしたが、終わってみるとかつて経験したことのない充実感がありました。

④学習・研究面でのアドバイス

とにかくハードなので休める時に思いっきり休みましょう。プログラム内には観光用の時間は取られていないですが、期限までに与えられた課題をこなせば自由時間を捻出できますので、早く終わらせて遊ぶのもありだと思います。NUS から主要観光地への交通アクセスは非常に良いです。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

シンガポール人の英語はやはり癖があります。慣れるまでが大変なので、少しでも早くなれるように何度でも聞き返すなどして努力をしましょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

あちらの大学が指定してくれます。私たちが宿泊したところは PGP レジデンスといい、一応個室です。鍵が電波鍵で私たちにあまり馴染みがないものなので初めは戸惑うかもしれません。部屋には空調がなく、天井に巨大な扇風機がついているだけですが、夜は涼しいので寝るだけなら十分です。昼はさすがにあついで、空調のある共用スペースに避難していました。家賃は半額 NUS から補助が出るのでとてもリーズナブルです。食事は大学内の各所にホーカーという屋台料理のフードコートがあり、一食二百円くらいで賄うことができ、しかも国際色豊かで美味しいです。シンガポールの食は文句なしに最高です。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候はずっと日本の夏の状態と考えるといいと思います。ただ、あちらは日本よりも湿度が低いので、汗でベタつくということはないです。NUS のキャンパスはとても広く、キャンパスだけでひとつの街のようになっています。口内を無料のバスが何路線も走っており、キャンパス内はこれを利用して移動することになります。このバスを使って最寄りのセントリッジステーションまで行けば地下鉄を利用して市街地に出ることもできます。

お金は最初に10万円ほどチャング国際空港で両替しました(シンガポールについてから両替したほうが手数料など安いです)。結局食費は思ったよりかからず、観光も予想したほど行く暇がなかったので、現地で使用したのは7万円ほどです。私はこのうち半額を部屋に保管して、残りは持ち歩いていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シンガポールは治安がよく、日本と遜色ありません。中国と違ってほられるということもありませんでした。医療機関は大学内にもあり、学生は格安で診察を受けることができました(私は使用する機会がありませんでした)。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

飛行機代7万円、現地で7万円(学費含む)程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の紹介で JASSO という団体から 9 万 2000 円頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

基本的にプログラムの課題をこなすことでいっぱいでしたが、現地の学生とサッカーをしたり、一緒に晩御飯を食べたり、ナイトサファリなど観光に行ったりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学習面でのサポートはさすがに充実していましたが、そのほかは割と個人のサバイバル能力がものをいう印象です。一応各サポート機関は存在していたようなので、そこに相談することはできそうです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

シンガポールでは現在公共事業に力を入れており、大学の設備はみな新しくしてクリーン、かつ合理的に整備されています。学生証があればプールやジムを使うこともできます。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

・シンガポールの街の合理性に触れ、日本も学ぶところが多いと感じた。
・自らの語学力の軟弱さを思い知った。「コミュニケーションする」方向にご学力を伸ばしていくことが大事だと痛感した。

・素晴らしい仲間たちとの出会いに感謝。

②参加後の予定

・学部の勉強に力をいれ、4年で卒業する。

・就職活動を通じ、日本企業のグローバル化に携わるような仕事をしたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もしこのサマープログラムに観光などの娯楽要素を考えているのなら、厳しい言い方ですがそれは違うと言わざるを得ないと言わざるを得ません。しかし、NUSの教育メソッドは本物です。「人材こそが国を守る全て」という考えを持つリークアンユー元首相の考えがいかに発揮されたこの大学では、自らの欠点を知り、人間を磨くということが何よりも重視されていると感じました。この大学での経験は、たった三週間ではありましたが私の人生に大きな影響をもたらしたように思います。人生を変えたいという強い志の持ち主がいれば、私はNUSを自信を持って勧めます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

・シンガポール navi

・skygate

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

